

# 友釣り(敵釣り?)によるオオクチバス繁殖なわばり雄の効率的な捕獲方法

山本充孝・上垣雅史・金辻宏明(滋賀県水産試験場)

## 【目的】

オオクチバス(バス)は春に砂礫質で風波が穏やかな場所で産卵し、しばらくは雄親が卵やふ化仔魚を保護する。そのため、産卵期には漁港などに卵を保護するなわばり雄が散見されるが、この親魚の簡便な捕獲方法は考案されていない。そこで、釣りによる効率的な捕獲方法を検討した。

## 【方法】

これまでバス親魚を捕獲するためにワームや活アユなどを試したが、ほとんど捕獲できなかった。一方で、産卵床に侵入したブルーギル(ギル)には猛烈な攻撃行動を示したため、繁殖なわばりに侵入する囷(おとり)としてギルを活用できないか検討した。バス親魚には5~6月に水産試験場の港湾で自然産卵した25個体を用いた(表1)。図1の仕掛けを用いて産卵床付近にギル囷を提示し、初めて攻撃行動をするまでの時間(ファーストバイト)と捕獲されるまでの時間を記録した。

表1 産卵床保護オオクチバス親魚の釣獲状況

	供試数	捕獲数	捕獲成功率(%)
雄	21	19	90.5
雌	4	2	50
計	25	21	84.0

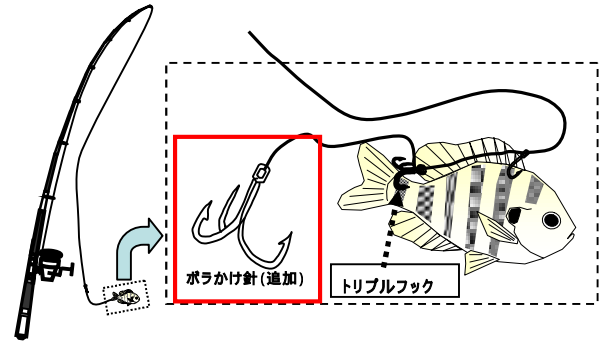


図1. なわばりバスを捕獲する釣り仕掛け(最終型)

## 【結果】

囷としてギルを用いると、これまでほとんど捕獲できなかった雄バス親魚を90%以上捕獲できた。また、雌バス親魚も半数は捕獲できた。

要した平均時間はファーストバイトには5分、捕獲には8.6分であった。産卵床付近に卵を捕食するギルが存在する環境条件や大型のギルを囷として用いた場合には、ファーストバイトまでの時間が短縮された(図2,3)。バス親魚は卵への捕食圧の高まりを察知してより攻撃的となったものと思われる。また、ギルへの攻撃は一度始まると頻りに繰り返されたが、尾緒のトリプルフックでは針掛かりが悪かったため、ボラかけ針を追加し、ギルに近付いてきたバスを竿をしゃくって引っかけるように改良すると効率よく捕獲できた(図1,4)。

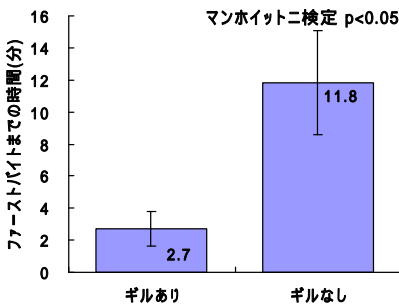


図2. 外敵の有無と釣れやすさの関係

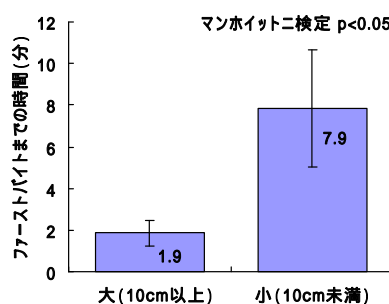


図3. 囷(ギル)の大きさと釣れやすさの関係

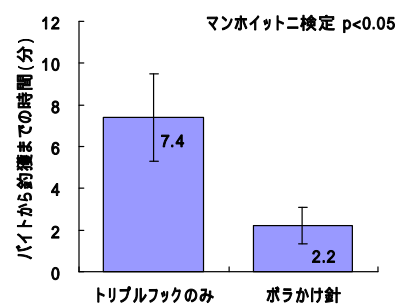


図4. 仕掛け改良による捕獲の効率